

第 66 回 国際経済協力セミナー

外大生が国際機関インターンから得られるものは何か？

講演者：斎藤実由貴、今井日向、竹花祐香

文責：永井哲平

草案作成：梅津育央



今回の国際経済協力セミナーは、それぞれ経済開発協力機構(OECD)、国際移住機関(IOM)、でのインターンシップを終えた3人の先輩方を迎えて行われた。

講演者：斎藤実由貴氏

派遣先：経済協力開発機構（OECD）東京センター及びパリ本部 Public Affairs and Communications Department, Media Review Team

派遣期間：2014年4月-2014年11月

斎藤氏は、OECDの東京センターに1ヵ月半、パリ本部に5ヶ月間のインターンを行った。講演では、OECDと斎藤氏の配属された広報局（PAC）についての説明をしていただき、東京とパリそれぞれにおける業務内容、パリでの一日のスケジュール例、所感やインターンの成果等のお話をうかがうことができた。

1. OECDについて

経済協力開発機構（Organization for Economic Co-operation and Development, OECD）は、先進国間の自由な意見交換・情報交換を通じて、経済成長・貿易自由化・途上国支援に貢献することを目的とした国際機関である。斎藤氏の配属された広報局はOECDの活動の対外発信や、加盟国を中心とした世界各国の情報収集を行う部門である。

2. 業務内容

斎藤氏が携わった主な業務は、OECDに関連するニュースや世界の政治的・経済的ニュースを探し、これをまとめMedia Reviewと呼ばれる冊子を作成、事務総長オフィスなどへ配布するというものである。この他にもMedia Reviewで取り上げなかった世界のニュースをまとめたToday's World Newsの配信、事務総長の出張に合わせた出張先のメディア情報のレポートの作成といった業務をおこなっておられた。また、OECD教育局と日本政府が提携して行っているプロジェクトの主催するイベントにおいて配布される日本語版資料のチェックを担当されたという。

3. インターンの成果

今回のインターンを通して得られたものとして、斎藤氏はいくつかの項目を挙げた。ひとつが、「国際機関での実務経験」である。実際の職場、働く人、仕事に直接触れるという貴重な経験を得ることができたと同時に、自分の進捗がチーム全体の仕事に影響を与えてしまうという責任の重さには苦労したと斎藤氏は語った。もうひとつが「コミュニケーション力」である。海外でのインターンとあって、英語を使って仕事に関する会話をしなければならぬため、間違いを恐れないという意識が必要となる。伝えよう、理解しようという姿勢が重要なのだということだった。最後に斎藤氏は、私たちへのメッセージとして、チャンスにめぐり合ったらまず飛び込んでみるということが大事だという言葉を送ってくださった。そうしたからこそ自分はすばらしい経験を得ることができたのだという斎藤氏のお話が、とても強く印象に残っている。

講演者：今井ひなた氏

派遣先：経済協力開発機構(OECD) 東京事務所 (2014/3/17-4/18) 報道官補佐

経済協力開発機構(OECD) パリ本部(PAC) (2014/4/22-5/16)

国際移住機関(IOM) ルワンダ(5月-9月) キガリ事務所代表補佐

今井氏は、「国際機関とはどういうものか、プロフェッショナルと共に仕事するとはどういうことかを知りたい」という目的のもと、二つの国際機関でインターンを行った。講演の中では、当初の目的についてはもちろんのこと、国際機関で得た様々な経験について生き生きと語って頂いた。

1. OECD について

OECD は OEEC (欧州経済協力機構) を前身として発足したヨーロッパ諸国を中心とする国際機関である。主に経済成長、貿易の自由化、そして途上国支援を目的としている。日本は 1964 年に加盟した。本部はフランスのパリに置かれている。

IOM について

IOM は Migration for the Benefit of All をスローガンとして支援を行っている国際機関である。世界的な人の移動とそれに付随する問題を専門に扱い、主要分野は緊急人道支援から開発まで「移住」を軸とした幅広い取組みを持つ。本部はスイスのジュネーブにある。

2. 業務内容 (OECD)

業務内容に関しては、OECD Forum 2014 および閣僚会議準備補佐、Twitter 等の SNS を通じた情報発信、日本で開催された OECD 関連イベントのメディアカバレッジレポート作成について伺った。また毎日行われていた業務として OECD を取り上げている記事の確認や報告といった Media Review という作業があったと伺った。特に OECD Forum 2014 では政府官僚やメディア関係者の案内や、特に関心度の高い安部首相の発言や玉木事務次長のプレゼンテーション、今後の OECD の指針発表に関する広報活動、最終報告書作成なども行ったようだ。

業務内容 (IOM)

今井氏は IOM ルワンダ支部で勤務された。IOM ルワンダでの主な業務内容は難民の再定住支援、労働移住管理、緊急人道支援としてのタンザニア政府より強制送還された人々の保護、社会統合や再定住の促進、人身売買対策、立案段階としての国

境管理である。例えば One UN 国連コミュニケーショングループというルワンダ内の 22 の組織が連携強化、情報の共有、資金配分の効率化などを目的として各組織の担当がミーティングを行うものがあったそうだ。

3. 国際機関のインターンで得られたもの

大きく分けて五つの成果があった。

1. 今後国際機関で注目される問題を特定できたこと。ミレニアム開発目標後のことや Post-2015 agenda についてなどを知ることができた。
2. 組織の構造や体制への理解を深められたこと。OECD がドナー側で、IOM が実施者側であるなど、どこの組織が何の分野に力を持っているかなどを知れた。
3. 国際機関でのキャリア形成のアドバイスが得られたこと。インターンの参加者や自分の上司から話を聞くことができた。
4. インターン経験に基づき、「ルワンダ紛争後の政策」という、自身の研究テーマの内容を深められたこと。
5. 国際機関に蓄積されたノウハウを学ぶことができたこと。過去の政策立案、プロセス、有効なプロジェクトなどを知ることができた。

以上の成果を踏まえ、この二つ国際機関のインターンでの経験は自身にとって大きな財産となった。

講演者：竹花祐香氏

派遣先：国際移住機関 (IOM) ジュネーブ本部 国際協力発展部門 移民調査チーム

1. 業務内容

IOM の業務は「移住と開発、移住の促進、移住の管理行政、非自発的移住への対応」が主な活動分野になる。

- ・ 「Research Highlight」・・・世界中や現地の新聞から移民に関する様々なトピックを選んで切り抜きまとめて IOM 本部に送るという作業である。移民問題に限らず世界的に大きな事件や出来事であれば切り抜く。可能な限り簡潔でわかりやすくする必要があった。
- ・ ウェブサイトに載せる写真の選定。Fatal Journal という雑誌が刊行されるにあたって掲載する写真の選択を任された。国境を超える際に多数の難民が命を落としているという事実を伝えるという目的をもって選定していた。
- ・ World Migration Report という世界の移民事情に関する雑誌が刊行されるにあたり、日本の自治体に送られたアンケートを英語に翻訳するという作業を行った。また外国人都市集住会議という Web サイトについて内容をまとめて上司に送った。

2. インターン生活を通して出来たこと

- ・ インターン生や IOM スタッフとの交流
- ・ 移民調査ユニットが主催するセミナーへの参加
- ・ 国連欧州本部で開催された IOM Council 2014 への参加

3. インターン生活を通しての成果

- ・ IOM の役割に対する理解

RH 作成の際世界中の移民問題に関するリアルタイムでの情報を目にすることが出来たため、世界の移民問題の現状を知ることが出来た。

- ・ 業務スキルや語学力、コミュニケーション能力の向上

すべての情報を英語で読み取り、職員とも英語でやり取りするため、リーディング、スピーキング、リスニングに関してはスキルが向上したと語っていた。

国際機関でのインターンシップを終え、内側から国際機関を見ることができた先輩方は一様に国際機関への就職を身近に感じる事が出来たと語っている。この講演を通して、学生たちは国際機関の業務をより具体的に知ることが出来、彼らの国際機関への興味は強く喚起された。講演の中では、とくに英語能力の重要性が強調され、学生には大きな刺激を与えたであろう。